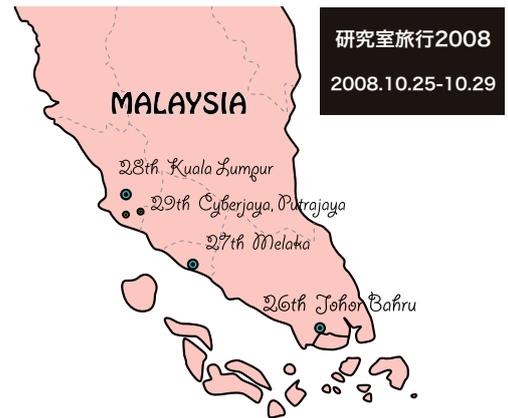


マレーシア研究室旅行 復習編

text_yahara

あつかったマレーシア研究室旅行から、はや数週間。旅行に参加した人もお留守番だった人も、盛り沢山だった今回の旅行を振り返ってみましょう。

Johor Bahru M2 山田渚

我々の研究室旅行はジョホール州から始まりました。商店の活気や車の往来で賑やかなマレーシア第二の都市ジョホールバル、24000エーカー(山線内面積の約1.5倍)に及ぶ超大規模開発プロジェクトの進むナサジャヤ、猿やムツゴロウが迎えてくれる、自然豊かなアジア大陸最南端の地タンジュン・ピーアイなどを回り、マレーシアの国土の表情の豊かさに驚かされました。中でもタンジュン・ピーアイでは、干潟にリフレクトする夕景の美しさに感動し、マラッカ海峡を行き交うタンカーの渋滞列に萌え、まるで自然と文明の交差点に立ったような、不思議な感覚に魅了されたのでした。

▲干潟に写る夕景(タンジュン・ピーアイ)

Melaka D3 リー・クウィン・チー

Visiting Melaka is still so attractive and fabulous to me even this is my second time. It is wonderful when seeing machinami in a foreign country somehow resembling with places in Vietnam (saying, in Hanoi and Hoian), and then curious to find out the differences.



This time, the most impression can be said the night-walk, enjoying light-up landscape. I think most of visitor would be attractive by impressive red in the street and elegant yellow on the river bank. It is so peaceful and romantic that we cannot help our-self to stop many times and take various pictures. The last stop was a warm café with old man playing pop music of 60s-70s. Enjoying a glass of beer in small half-open space of renovated old house, wallowing in old rhythm helps people to get closer and would be never-forget-happy-memory of us.

▲川沿いの夜景

Kuala Lumpur M1 西川亮(幹事)

マレーシア旅行最後の目的地、首都クアラルンプール。最後の夜はスイカジュースで乾杯。あの甘いジュースも今では懐かしい味です。翌日はプトラジャヤの並外れた規模の都市計画に皆圧倒され、最後まで刺激的な旅行でした。

8月から始まった研究室旅行の幹事。一足早く帰られる先生方を見送ったところで幹事の仕事も終わりでした。帰国後、UTMのCeliにメールでこう書きました。See you somewhere in the world! 専門を同じとする仲間たち。どこかで会える日を期待して。皆さん、本当にありがとうございました。



▲コンベンションセンターの椅子に腰掛ける西村先生(プトラジャヤ)

佐原PJ、古着屋ぐるぎ+、倉庫活用コンテスト無事終了

text_hiraoka

古着屋「ぐるぎ+」と倉庫活用案コンテスト「夢見るくら」を行ってきた佐原プロジェクト。11月2日に、ついにフィナーレを迎えました。



▲ ぐるぎ+の前で集合写真。発表会に来てくれた子どもたちと。

古着屋「ぐるぎ+」

「ぐるぎ+」は閉店セールを実施。商品を全品100円で売り、店内は大盛況でした。

そして、最後の作業は片付けです。のれんを外し店内の棚や服が全部なくなると、とても寂しい気持ちになりました。

メンバーは毎週末交代で佐原に行っていました。店番をしながら佐原のみなさんといろいろな話をするのができ、楽しく充実した3ヶ月間を過ごしました。佐原の皆さま、ありがとうございました。



▲ 混雑する店内

倉庫活用案コンテスト「夢見るくら」

「夢見るくら」こと中村屋倉庫では、活用案コンテストの発表会を行いました。

このコンテストは、地元の小学生に「夢見るくら」の楽しい使い方を絵に描いてもらい、発表してもらうもの。なかなか絵が集まらなかったり、発表会参加者が直前までわからなかったり。不安だらけで迎えた当日でしたが、9人の小学生達が観客の大人たちを前に堂々と自分の考えを述べてくれて、たいへん盛り上がりました。8月から始まった企画の締めくりにふさわしい、ステキな発表会でした。



▲ 「夢見るくら」外観 ▲ 発表会の様子

鞆プロジェクト北海道遠征

M2 北村修一

11月8日、第43回日本都市計画学会学術研究論文発表会が北海道で行われ、その中でワークショップ「歴史的港町・鞆のまちづくりを展望する～埋め立て架橋計画、世界遺産訴訟のその先へ～」が行われました。

鞆の原告の方、NPOの方、担当弁護士、イコモス、および西村先生、中島さんによる講演のあと、参加者による熱い議論が交わされました。

鞆PJメンバーは資料作成や運営の手伝いなどを行いました。訴訟の技術など初めて耳にすることもあり、とても感心させられました。参加者も想定より多く、埋め立て架橋問題に対する関心の高さを伺うことができました(ついでに、持っていった鞆雑誌10冊は完売しました♪)。



▲ 担当弁護士による訴訟経緯の説明に聞き入る参加者

前日には小樽にて、小樽運河の保存運動に長く関わってこられた方々の講演も伺いました。ある講演者の方は、94歳にしてなおその喋りに力があり、訴えかけるものがありました。まちを保全していくこと以上に、輝かしい人の生き方を見せていただいたような、そんな気持ちでした。

研究室旅行番外編

—Singapore—

M2 鈴木惇也

あつかった。なにもかもが。シティギャラリーではシンガポールの未来や現状がとてもわかりやすく展示されており、日本では存在すら知らない人が多いマスタープランに興味をもてるように、クイズ形式や重ね地図などの工夫がされていた。まちづくりに関心を持つ人の裾野の広さに驚き、これを見て日本で自分たちに何ができるのかに心を躍らせ、シンガポールを後にした。



▲ シティギャラリー内にあるシンガポール中心市街の模型

編集後記

text_yahara

研究室旅行から早くも1ヶ月が経ってしまいました。帰ってきて東京は一気に寒くなり、そのせいか？最近私は風邪で1週間も寝込んでしまいました。皆さんも気をつけてください。&研究室の換気はこまめに行いましょう。最後に、今号の発行が大変遅くなり申し訳ありません。新企画も検討中ですので愛読よろしくお願いたします。

都市デザイン研究室 12月の予定

12月 1日	第11回研究室会議
12月16日	第12回研究室会議
12月25日	忘年会